

障害福祉サービス事業所の 不審者対策・防犯について考える ～相模原障害者施設殺傷事件を教訓に～

令和3年11月16日（火） 13：30～15：30

社会福祉法人 越谷市社会福祉協議会
越谷市障害者就労訓練施設「しらこぼと」ホール

自己紹介

- 本名：Sanae Sunny Kamiya アメリカ国籍 59歳
- 元福岡市消防局消防吏員、レスキュー、救急隊員
- 元国際緊急援助隊隊員、ニューヨーク州救急隊員
- 教戒師（牧師）、再犯防止プログラム講師
- 一般社団法人 日本防災教育訓練センター 代表理事
- 防衛省、外務省（消防防災・危機管理教育専門家）
- 危機管理コンサルタント、防災アドバイザーなど
- ラオス国国防省陸軍工兵部隊救助救急指導官
- テイケイ警備保障 防犯士研修講師
- 近代消防、リスク対策.com連載中
- FaceBook: サニー カミヤ

研修テーマと目的

- 研修テーマ：障害福祉サービス事業所の
不審者対策・防犯について考える
～相模原障害者施設殺傷事件を教訓に～

①話して知る

「事態対応について、話して・知って・気づいたことを共有する」

②伝えて救う

「発生時、命を守ることを伝えて・教えて・救うことを学ぶ」

③備えて守る

「事態対応対策に必要なものや安全支援情報等、書き出して・備えて・守ることをきちんと準備計画し実践する」

●研修内容と目的：

施設関係者として、不審者対策等に必要な知識や備え、自主防犯対策について考え、書き出した内容を話し合っ、気づいたことを皆で共有したり、関係者や施設利用者に伝えて、発生時に生命・身体を守り、心を救うことにつなげたり、具体的にできる範囲で、備えて生活を守ることを計画して実践できる人になる。

過去の刺傷、無差別殺人事件から予測できる様々な犯人像

「拡大自殺」：絶望感から自殺願望と復讐願望を抱き、無差別殺人を行って、「死刑のための殺人」を企画し、実行する犯罪者の場合の犯行動機は「複数の人を殺せば死刑になると思った。誰でもよかった」という強い自殺願望を抱いていたものの、自分で自分を傷つけるのは痛いし、死にきれないかもしれないから、死刑によって自殺を遂行しようとする、典型的な「死刑のための殺人」といえる。

・生きがいを感じられず、満たされなかった。満たされるのは、ゲームの中で強い立場になる瞬間だけだが、ゲームの主人公に比べ、自分は無能と感じたり、自己愛的イメージと現実の自分のギャップに悩んでいた。

・今でも死にたい。精神鑑定ของときも、刑事責任が問えないと判断されたら、どうしようと思った。死刑にならなかつたら、と不安だった。

怖いのは、「コピーキャット (copycat)」、無差別殺人犯の多くは、先行犯人に共感し、触発されて、さらに犯行場所とタイミング、殺人手法や道具の選択、殺人対象者の動線を研究し、実行に移す、負のスパイラルの多激連鎖である。

犯人の植松は低学年の時の作文に「障害者はいない」と記述していた。また、「障害者を皆殺しにすべきだ」など、施設入居者への暴行・暴言など勤務態度に問題があったため、何度も指導・面接を受けていたほか、刺青を入れる・業務外の問題行動も散見された。

衝動の抑制が効かなかつたり理性的な判断が難しく、「自己愛性パーソナリティ障害」があったことが判明したが、「動機地了解可能性」「犯行の計画性」「行為の違法性の認識」「精神障害による免責の可能性」「犯行の人格異質性」「犯行の一貫性・合目的性」「犯罪認識と犯行後の自己防衛行動」殺害計画に沿って合理的に行動しており、心神喪失状態ではなかった。精神病というよりは「性格の大きな歪み」に分類され、自分の意見が通らないと「周囲がいけない」「法律がおかしい」と自己中心的な思考に陥りがちだった。

●事件発生後、同事件に関連・便乗した事件が4件も発生した。

注意欠如・多動症を伴う**素行症**を10歳以前に発症した場合、成人期に反社会性パーソナリティ障害を発症するリスクは増加する。素行症が反社会性パーソナリティ障害へと進展するリスクは、親が子供を虐待したり、ネグレクトしたりする場合、またはしつけもしくは子育てに一貫性がない場合は増加する場合がある。

個人的利益や快樂のために違法行為、器物の破壊、他者への嫌がらせ、欺瞞行為、搾取的行為、無謀な行為を行い、良心の呵責を感じない。

- ・ 社会的、金銭的に無責任、他者の安全性を顧慮しない。
- ・ 世の中のあり方を責めることで自分の行動を正当化または合理化する。
（例：敗者は負けるべくして負けたと考える、自分自身の利益を追及する）
- ・ 被害者を馬鹿だったまたは無力だったと責める。
- ・ 自分の行動が他者に及ぼす搾取的で有害な影響に関心を示さない。
- ・ 他者に対する共感に欠け、他者の感情、権利、苦しみを馬鹿にする。
- ・ 人のいいなりにならない、いかなる犠牲を払っても自分にとって最善と考えることをする。
- ・ 突然転職したり、引っ越したり、人間関係を変えたりする。

など。

犯行予告があつたにもかかわらず警察の危機管理能力が不十分だった

●犯行予告文抜粋：

- ・「津久井やまゆり園」と同県[厚木市](#)内の障害者施設の2施設を名指ししていた。
- ・具体的な手口として「職員の少ない夜勤に決行する。職員には致命傷を負わせず結束バンドで拘束して身動きや外部との連絡を取れなくし、2つの園260名を抹殺してから[自首](#)する。

●犯行予告行動抜粋：

- ・元[内閣総理大臣安倍晋三](#)宛ての手紙（犯行予告）を[自由民主党](#)本部に持参していた。
- ・衆議院の事務局が警察に通報し手紙を提出。2016年（平成28年）2月16日、津久井警察署員が来園し、総務部長が対応した。津久井警察署員は、被疑者が衆議院議長に渡した手紙の内容を伝え、被疑者への対応を話しただけで、手紙そのものを津久井やまゆり園関係者には見せなかった。
- ・県の施設の指定管理者としては、施設の利用者に危害が及ぶ可能性があるという情報を津久井警察署から伝えられた時点で、なぜ、県に報告しなかったのか？

ただ、県に報告されていたとしても具体的に対応したかは疑問が残るが。。

家族環境不和・外での暴力的環境・体罰が犯罪者を増やす可能性大

DV（ドメスティックバイオレンス）& PV（パブリックバイオレンス）の繰り返しが人生の可能性を追い詰めていき、生きがいを奪い、自虐的な気持ちから、他者への攻撃に変化していく。

トラウマによる特徴的な症状

再体験（侵入症状）

- ▶ 出来事の衝撃的な場面が急に頭に浮かぶ（フラッシュバック）
- ▶ 繰り返し悪夢をみる ▶ 出来事の一部を思い出せない

回避症状

- ▶ 出来事を思い出す状況や人、場所などを避ける
- ▶ 出来事について考えないようにする

認知・気分の変化

- ▶ 「誰も信用できない」「自分はダメな人間だ」と考える
- ▶ 罪責感、疎外感 ▶ 悲しい・楽しいなどの感情がわいてこない

過覚醒症状

- ▶ 寝つきがわるい ▶ 眠りが浅い ▶ 小さな物音にびっくりする
- ▶ 集中力がない ▶ ちょっとしたことイライラしたり、けんかになる

その他に見られるストレス反応

こころ：

- 何も考えられない ● 何もしたくない
- 「自分はダメだ」と落ち込む
- イライラしやすい ● マイナス思考

からだ：

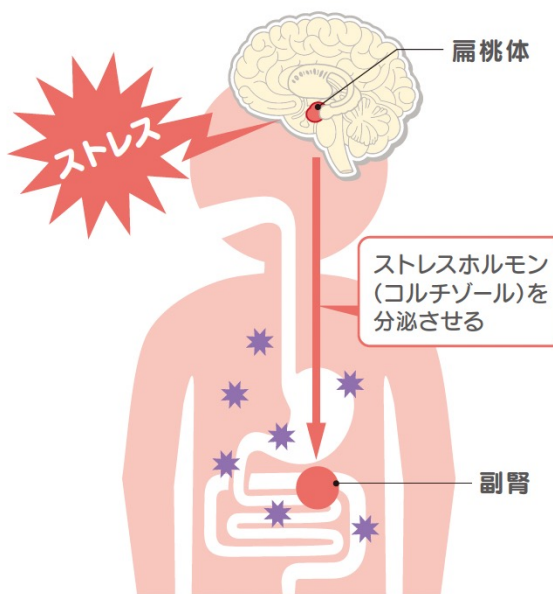
- 頭痛 ● 腹痛 ● 吐き気 ● じんましん
- 食欲がない ● 体のだるさ ● 生理不順
- 眠れない

行動：

- 赤ちゃん返り ● 甘える ● 引きこもる
- 反抗的や攻撃的な態度 ● もの忘れが多い
- 勉強に集中できない

脳の防衛反応

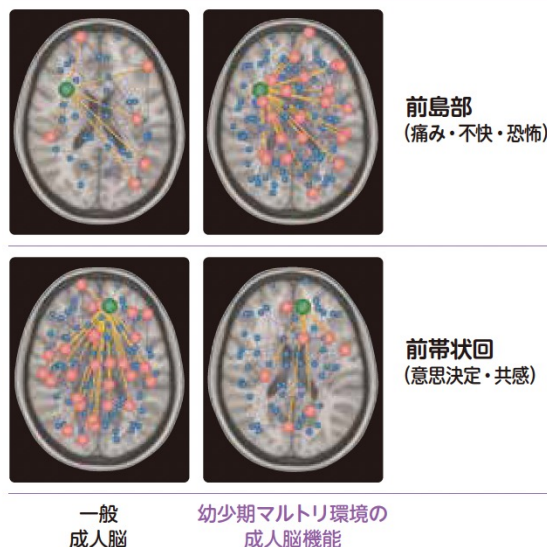
極度のストレスを感じると苦しみから逃れようとストレスホルモン（コルチゾール）で自らの脳を攻撃し、特にデリケートな子どもの脳は、環境適応しようとして傷つく



感情のコントロールが苦手な脳

好き嫌いや快不快、敵か味方かななどを判断したりする「扁桃体」が過剰に活動し、怒りなどに適度にブレーキをかける「前頭前野」の活動が低下し、攻撃的な行動を取る

「意志決定・共感」の配線は乏しくなり
「痛み・不快・恐怖」の脳の配線は増える



(Nat Rev Neurosci. 2016)

喜びを感じにくい脳

ほめられたり、ごほうび（報酬）を得たりすると活発になる「線条体」の活動が低下し、短期的な報酬（目の前の快楽）を探索しがちになり、長期的な視野での大きい報酬に価値を持ちにくくなる

健常児

ご褒美をもらおうと
喜びを感じる脳が活動

愛着障がい児

喜びを感じる脳（線条体）
が活動しにくい



(BJPsych. 2015)

出典：（一社）日本家族計画協会 [マルトリ予防™](https://marutori.jp/)

<https://marutori.jp/>

マルトリにより傷つく脳

前頭前野

厳しい体罰で萎縮

聴覚野

暴言で変形

扁桃体

強いストレスで変形

出典：（一社）日本家族計画協会
[マルトリ予防™](https://marutori.jp/)
<https://marutori.jp/>

愛着障がい(被マルトリ)の行動特性

反応性愛着障がい



他人に対して無関心



用心深い



イライラしやすい

脱抑制型対人交流障がい



多動



友達とのトラブルが多い



人見知りがない

被マルトリ児の中には、
神経発達症のような行動をとる子どもがいます

自閉スペクトラム症 ASD

[Autism Spectrum Disorder]

- 対人関係・社会性の障がい
- 想像性・コミュニケーションの障がい
- 興味関心の偏り・パターン化した行動
- 感覚の過敏さ・鈍感さが極端

注意欠如・多動症 ADHD

[Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder]

- 不注意(集中できない)
- 多動・多弁(じっとしてられない)
- 衝動的に行動する(考えるよりも先に動く)

知的な遅れを
伴うことも
あります

限局性学習症 SLD

[Specific Learning Disorder]

- 「読む」「書く」「計算する」などが、
全体的な知的発達に比べ極端に苦手

発達性協調運動症 DCD

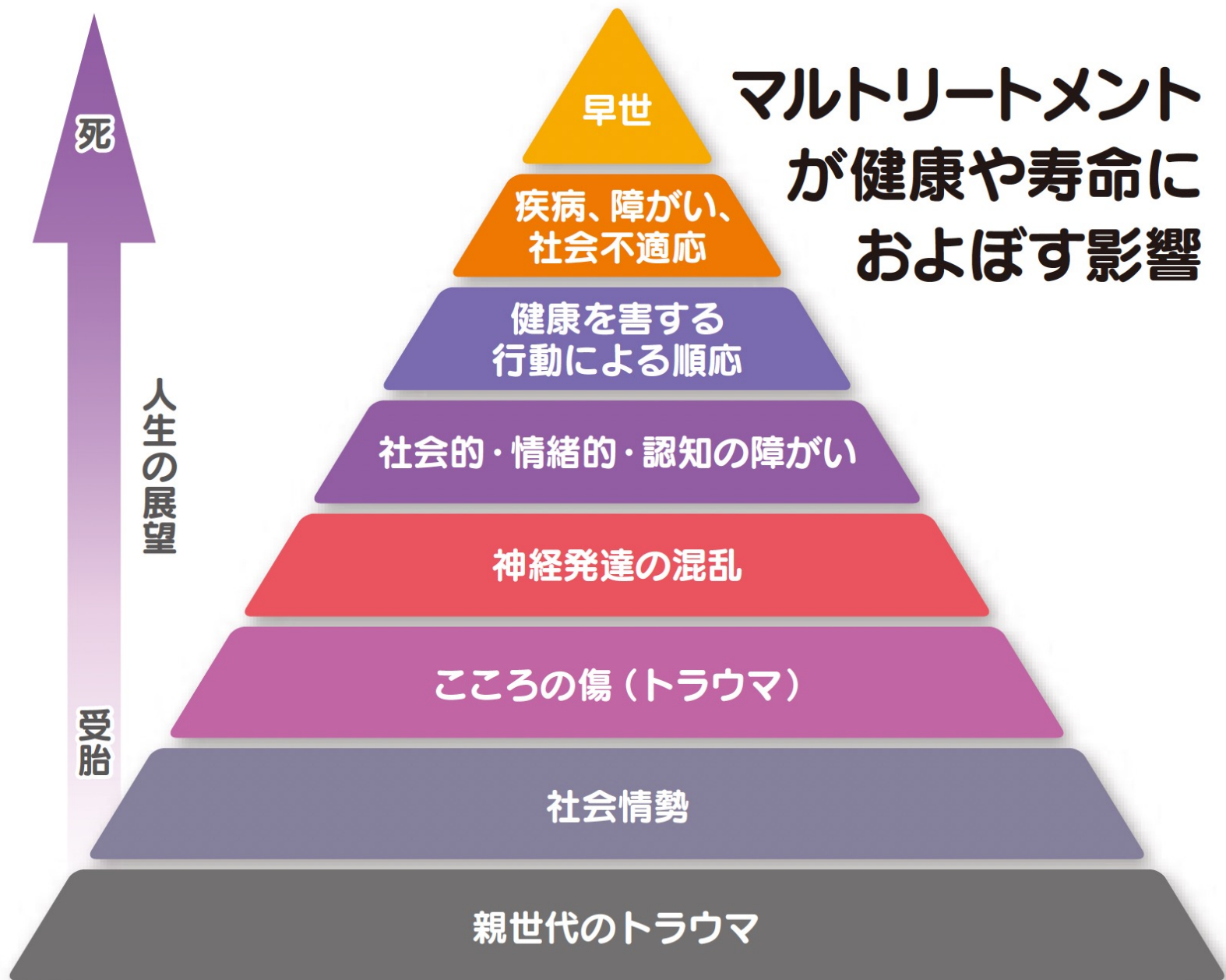
[Developmental Coordination Disorder]

- 協調運動が苦手で、極端に不器用

神経発達症の特性

出典：(一社) 日本家族計画協会 [マルトリ予防™](https://marutori.jp/)

<https://marutori.jp/>



出典：（一社）日本家族計画協会

[マルトリ予防™](https://marutori.jp/)

<https://marutori.jp/>

（CDC 米国疾病予防センター 2020）

不審者の見分け方

プロファイリングを身につける。

- 犯罪にもよるが、不審者や犯人はどこか違和感、おかしい態度を取っている。服装、態度、仕草等
- 大きな手荷物、金属音、荷物を何度も気にする。
- 神経質そうな動き、落ち着かない、移動が多い等
- 不自然で反復的な動き、迷っている様子、焦り顔等
- 視線を避けている、合わせようとしない、逸らす等
- 常に体の位置を変えている、荷物を頻繁に確認する等
- 不自然な場所でメモを取っている、不思議な場所の写真を撮っている、施設や柱にマークを付けている等
- 質問や挨拶に応えない。退かない。無視している等
- ターゲットとする対象を注視している。

事態対応時の10のポイント

- ① 危害を最小限に止めるため、沈着冷静に行動し状況判断を誤らないこと。
- ② 常に発生する異常事態を状況予測し、対応手段を考えて行動すること。
- ③ 些細な不審点でも看過しない周到な注意力、猜疑心を持つこと。
- ④ 広い視野と的確な判断を維持し、常に冷静に対処すること。
- ⑤ 眼に映る物(者)から必要な情報を素早く読み取り、不必要な情報に惑わされない判断力を持つこと。
- ⑥ 守備の隙を窺っていることを常に念頭に置き、間隙のない守備態勢を研究実施すること。
- ⑦ 正常行動と不審行動の微細な相違を見逃さず、観察力と判断力を身につけること。
- ⑧ 不審者発見時は、間合いを十分に取りその動向に十分注意すること。
- ⑨ 常に臨機応変な心構えを持つこと。襲撃事故発生時は、速やかに襲撃者から遠ざかる方向に避難すること。
- ⑩ 監視カメラ、ビデオ、音声録音、写真等、普段から記録手段を多く準備し、不正、窃盗、放火などの犯罪を具体的に予防すること。



ナイフを持った男が施設内に入ったら

- ・ 事前に周知していた緊急事態曲「森のくまさん」などを流す。
- ・ 話があるようなら外鍵付きの応接室に通して閉じ込める。
- ・ 患者や利用者がいるドアをオートロックで施錠する。
- ・ 入ってきたドア以外のロックしたドアを素早く開けて逃げる。。
- ・ 何人かは椅子の脚を犯人に向けてバリケードを作りながら後退。
- ・ 一斉に椅子や何かを犯人に何度も投げつけながら逃げる。。
- ・ 犯人は弱い者（女性、子供、高齢者、障害者等）を狙う。

ナイフを持った男と1対1で対峙したら

- ・ 椅子を持って時計回りにナイフを避けながらナイフを落とす。
- ・ 火災報知器のボタンを押す。消火器や屋内消火栓で攻撃も可。
- ・ 犯人のメガネを壊せば、見えづらくなる。
- ・ 犯人が椅子の脚を捕まえたら、一気に壁まで押しやる。
- ・ できる限り、多くの関係者を避難させ、警察に電話させる。
- ・ 関係者には声を出しながら避難させ、利用者を外に出さない。

殺人企図者の第1感情を刺激しないこと

叱りつけられた、屈辱や侮辱を受けた、おとしめ、恐怖、あざ笑いなどを何度も繰り返し受けた、自分への強い過小評価を感受した負の経験が第1感情が元となって、犯行中は「第2感情」が表に出ている状態になるため、第1感情を刺激する言葉を犯人に向けると激情する可能性が高くなる。

もし、声をかける余裕があれば、ほんの少し間をおいて、怒りの陰に隠れているはずの第1感情をみつめるような温かい言葉をかけてみる。

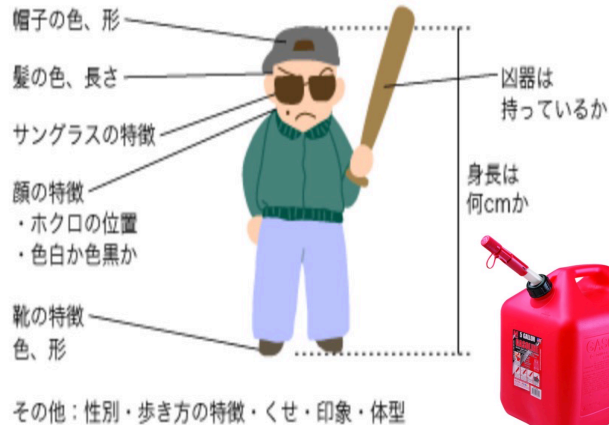
過去の発表例：

- ・俺もお前と同じ気持ちかもな！最近、バカバカしくて、生きるのがつらいよ。
- ・お前と話したいから、次の駅で降りて飲みに行かないか？
- ・どうしたら、この人たちを許せる可能性がある？

■ ↓あなたなら何と言いますか？犯人の気持ちになって考えてみてください。

施設内での不審者対応

施設にナイフとガソリンを持った不審者が 入ってきたらどうしますか？



1、居合わせた職員の初動対応は？

2、誰に何を連絡しますか？

3、何に気をつけますか？

・ 気になることや質問したいことは？

通勤途上で利用者にナイフで切りつけている男が居たらどうしますか？



1、居合わせた職員の初動対応は？

2、誰に何を連絡しますか？

3、普段から何に気をつけますか？

・気になることや調べてみたいこと、質問したいことは？

通勤時、施設内での不審者対応

- ・まず、プロファイリング（不審者を予測）を覚えること。
- ・すべてのゲートやフェンス、出入り口に表と裏の両側に鍵を付けることで、避難誘導後に犯人を閉じ込めることができる。少しでも時間を稼ぐ。
- ・警察の到着は通報から約20分、警備員は25分、消防119は7～8分。
- ・ナイフで刺すケースが多い。犯人は右利きがほとんど。たたき落とす。
- ・犯人は特にナイフを使う訓練をしていないため弱いことが多い。
- ・ナイフを落としたら職員2～3名で椅子や机などを持って押さえ込む。
- ・通勤時、極端に近く、後ろを歩く若い男性は、不審者として考える。
- ・不自然に走って近づいてくる人は、攻撃してくるものと考え。
- ・自宅周囲で人が乗ったままの車は注意し、ナンバーを覚えておく。
- ・ポケットに手をいれたまま近づいてくる人は、武器を出すものと考え。。
- ・不自然に目を逸らす人やじっと見つめてくる人は、手元を確認する。
- ・通勤ルートや行動時間にはパターンを作らないようにする。



どう守るかを普段から考えて練習しておく。

自分が電車内で座っている状態のときに犯人がナイフを振りかざしてきたら。。

- ・逃げる事が出来るのであれば逃げることを選択するが、他の人にも避難を喚起しながら逃げ、非常警報装置で、車掌・警備員等に早く知らせる。
- ・必ず、行き詰まり人壁ができ、最後部の人達が複数回刺される。
- ・追い詰められて、ナイフを振り回されたり、刺されそうになったら、持っているバッグの面積を最大限に活かして盾にし、首から心臓を守る。
- ・キャリーケースの底で犯人の胸の真ん中を押し、壁まで追い詰める。
- ・犯人のほとんどは右利きであることから、自分の左側をガードすることを考えて守る。
- ・もみ合ってナイフを落としたら、ナイフを蹴って、犯人から遠ざける。
- ・落としたナイフを拾って犯人を刺さないこと。。
- ・武器を落とした犯人に次々に乗客が馬乗りになって、動けない状態にする。
- ・身を守るためにシートを外したり、消火器を持ってくる暇はない。。
- ・できないことは考えず、できることを考えて練習すること。

など

ナイフによる刺傷の応急処置

- 1、自分の身を守り続ける。布類で圧迫止血。多くの助けを呼ぶ！
 - 2、119電話対応とAED複数搬送指示。意識がない場合は気道の確保やCPR。
 - 3、直近の病院から医者や看護婦などと呼んでくる。負傷者の数を告げる。
 - 4、意識がある場合はできる範囲で手当。感染予防！声かけ！呼びかけ！
 - 5、ショック体位、出血部を心臓より挙上。人手が足りない際はバックを使用。
 - 6、自分の手や傷を保護する布に血がついていないことを確認！
 - 7、ナイフが刺さっている場合は絶対に抜かない。できれば、仰向けにする。
 - 8、ナイフ刺傷部位の保護（ハンカチ、生理用品等、誰のものでも可）
 - 9、血が噴き出している部分に布を重ねて広く圧迫止血する。自分でも。
 - 10、肺刺傷：正常な肺に血が行かないように刺されている側の肺を下にする。
 - 11、犯人が戻ってきたら逃げる。自分が刺されないこと。
 - 12、携帯電話で撮影させず、現場管理、搬送など手伝わせること。
- できるだけ多くの助けを呼び、それぞれが違う役割をすること。
- できれば、救急車と救急隊の動線を確保すること。伝えること。

一般的に日常で起こる可能性があるといわれているもの

- 1、放火（ガソリン、ライターオイル、灯油、液化ガス、時限発火等）
- 2、ナイフ（特定ターゲット・無差別殺傷）
- 3、爆弾（黒色火薬、圧縮ガス、水蒸気等）
- 4、ラミングアタック（車での群衆突入&刃物）
- 5、ヒ素などの劇・毒・薬物を飲食物に混入
- 6、塩素系＋酸素系洗剤による有毒ガス
- 7、散弾銃、ドローン、送電施設部分破壊
- 8、航空機、新幹線、鉄道、バス等閉鎖空間利用など



不審者対策の各種リスク予測と対応案

	各種被害予測	発生後の対応案
施設被害予測		
利用者被害予測		
職員被害予測		
事業被害予測		

複数のファーストレスポnderが生命を左右する

- 事態関係者（教師等）が自ら協力し、それぞれが同時進行で、できることをできるだけ迅速に行う。
 - 事態発生通報（発生場所、時間、負傷者数、状況）
 - 避難誘導実施（自主避難を促す、要援護者を優先）
 - 初動対応開始（消火、排煙、避難、救急、救助など）
 - 救命処置継続（心肺蘇生法、人工呼吸、AED）
 - 救急処置実施（止血、骨折、ショック）



被害や被害者を最小限にとどめることがファーストレスポnder（応急救護者）の役割。特にテロ災害時は現場と周囲が混乱し、消防の到着を待っていたら救命率は著しく下がる。

不審者対応時救急対応詳細

- ・まずは、自分の身を守ることを最優先する。
 - ・救急対応携行セット（重傷者用）＆個人装備準備。
 - ・血液や嘔吐物などからの感染予防。
 - ・ペットボトルの水やお茶、他の飲料水でも洗浄可。
 - ・救急対応アシスタント2名以上へ同行指示。
 - ・トリアージ、救急処置、救急車要請、搬送、観察等。
 - ・指令センターへ逐次、救急対応状況報告する。
 - ・負傷利用者のご家族へ搬送先病院の連絡。
 - ・救急対応報告書の記載。メディア対応にも使用。
- ※AED、救急セットは各フロアのものを使う。



不審者対応時に役立つ個人装備

- 救急用品：ポケットマスク、感染防止用手袋、包帯、ゴーグル、マスク、止血用ガーゼセット、バンデージ、SWAT-T、頸椎保護カラー、水入りペットボトル等
各2セット以上
- 消火活動用具：消防手袋、ゴーグル、防煙マスク、ヘルメット、水入りペットボトル等
- 避難誘導用具：携行ライト、ヘルメットライト、特定省電力無線、携帯電話、拡声器、赤色誘導ライト等
- その他：反射板付きベスト、ビニールシート、警戒区域設定用トラロープかテープ、ヘルメットカメラ、ボディーカメラ、護身用警棒等



不審者対応に役立つ消防設備、警備施設 誰もが使える便利な設備

- 屋内（屋外）消火栓：除染、消火、犯人の撃退等
- 消火器やスプリンクラー：消火、犯人の撃退等
- 火災報知器：発災現場を知らせるシグナル
- 防火戸：火災延焼予防、煙拡散防止、防火区画作成
- 排煙設備：排煙、屋内への煙や有毒ガスの拡散防止
- 施設内防犯カメラ：犯人や被害者の位置特定、記録
- 館内放送：避難誘導、犯人への説得、情報伝達

既存の設備をきちんと使いこなすことで命が救える！

どうやって守るかをまず考える。

平日9～5時に犯人がナイフを振りかざして施設に入ってきてそうだったら。。
状況や利用者の障害程度などに応じて異なることが前提。洗い出しが大事。

- ・ 静かにして隠れる。。
- ・ 部屋の前後のドアをロックする。。
- ・ 軽度障害の利用者に机でバリケードを作らせる。
- ・ 利用者に椅子を持たせて、部屋の隅に逃げさせる。。
- ・ ナイフ以外は危険ではないことがほとんど。。
- ・ 職員は携帯電話、インターホンなどで危険を知らせ、警察に通報する。。窓の外へ「助けて」と叫ぶ。
- ・ 大声を出して、両隣の教室など、他を避難させる。
- ・ 犯人は右利きがほとんど。。右手を制す。

川崎殺傷事件について
通勤・通学途上など、路上で起こった場合
Drop、Run、Call（荷物を捨てる、走って逃げる、通報する）
無差別殺傷事件を発生させないための社会的取り組みも
必要だが、発生したときの対応方法を最低1つは知っておきたい。

Drop、Run、Call（荷物を捨てる、走って逃げる、通報する）

1. 早く危険を察知したり不審を感じた人が、「早く逃げろ！」など、大声を出して、注意喚起する。
2. 犯人が向かってきたら、重たい荷物を素早く捨てて、周囲に知らせながら逃げる。
3. 逃げる際に身を軽くするため、逃げながらランドセルや荷物をその場に捨てて車道ではない方向へ逃げる。ワンタッチで脱着できるランドセルがあってもいいと思う。
4. もし自分の子どもが襲われるような状況で、ラグビーや格闘技の経験がある親などの場合、犯人の真後ろにアプローチできるのであれば、犯人の両足下部に後ろからタックルして前側に倒し、そのままズボンのすそを持って、動かないように押さえ込む。犯人が倒れたときに手をつこうとして武器を離す可能性もある。また、押さえ込んでいる人以外が、包丁を持っている指を踏むか、包丁の取っ手を蹴って、武器を手放させた後に犯人の背中を押さえ込む。
5. 自分の背部がコンクリートの壁など、追い詰められた状態で、真正面から両手に柳刃包丁を持った男が襲ってきたら、犯人は利き手をメインにして振りかざすのと両手を同時に振りかざす可能性は低いと思われる。その時に持っているもの（かばんやランドセル）で自分の首や心臓部、内蔵部を守りながら、逃げられる方向に回り込み、逃げるしかないと思う。

Drop、Run、Call（荷物を捨てる、走って逃げる、通報する）

7.消火器や屋内消火栓、スプリンクラーなどの消防設備は法整備されて、日本国内に普及し、火災を減少させた結果を出している。非常警報設備（非常警報ボタンや防犯カメラ、非常警報スピーカーなど）も同じく、一般の方々が使えるように普及させるべきではないかと思う。非常警報スピーカーは大音量の自動音声で、事態の発生を周囲に伝えて、避難を促し、また、同時にATMのカメラのように事態の一部始終を記録し、できれば、通報先の指令センターにライブ映像が映し出されてスピーカーで犯人を説得したりできると思う。さらに警報設備と救急設備のセットがあるとさらに救命率は高まると思う。

救急セットは、居合わせた医療関係者や救命法のトレーニングを受けた人ばかりでなく、バイスタンダーやファーストレスポnderなど誰でもが使える状態の方が望ましい。

8.警察官をはじめ、一般の大人、子ども達にも止血法や心肺蘇生法を教える。諸外国では、10歳以上の子ども達が、自分たちしか居ないときの自己防衛手段として、救命法や事態対処術を教えている。また、警察官も現場で救命行為ができるようになるための訓練や派出所やパトカー内に救急セットの常備し、現場へ持参することで、警察官自らが使用したり、また、居合わせた医療関係者、救命トレーニングを受けた人などが使うこともできると思う。公共の場所に救急セットや非常警報装置を設置することで、いたずらを気にする方もいるかもしれないが、既に電車内や駅ホームに非常停止ボタンが設置されており、有効に活用されている。

に 逃げる

にもつ す
荷物は捨てる



おと だ 音を出す

こえ あ
声を上げる



し 知らせる

つうほう
通報する



あいて き て ほう
相手の利き手の方へ



ぼうはん
防犯ブザー



おとな せつめい
大人に説明



身を守る練習をさせる

<https://lin.ee/cQZzsAQ>

身を守る練習をしておこう

万が一に備えて、練習できることはあります。『みんなで防災アクション!』（評論社）などの著書がある日本防災教育訓練センターのサニー・カミヤさんに聞きました。

みなさんが生きている社会で、毎日こわいことが起こるわけではなく、だれもがこわい目にあう

わけでもありません。でも地震や水害、火事と同じように、突然何かが目の前で起きることはあります。そんな時に、自分や友だち、まわりの人の命を守るために行動できる人になりましょう。あやしい人や、おかしいなと感じる人がいたら他の人に知らせます。空ぶりでもかまいません。だれかが傷つけられそ

うだと思ったら、「逃げろー!」と大きな声を出しましょう。声を上げる人が増えれば、逃げられる人が増えます。

そしてもしも目の前にこわい人が現れてしまったら、ランドセルなどの荷物を捨てて、相手が手をのばしてきている「利き手」の方向に逃げます。右利きの人のほうが多いので、基本的には自分の左側に逃げます。

鬼ごっこも役立つ

「鬼ごっこ」は逃げる練習になります。声を出しながら逃げる、仲間を守りながら逃げるというルールを作って遊ぶのもいいですね。

防犯ブザーを鳴らす練習や、自分が見たことを大人に説明する練習もしておきます。公衆電話や火災報知機などの通報ボタンがどこにあるか見てみましょう。

年齢に応じて自分の「生きぬく力」を育て、いつか、子どもたちを守る大人になってください。



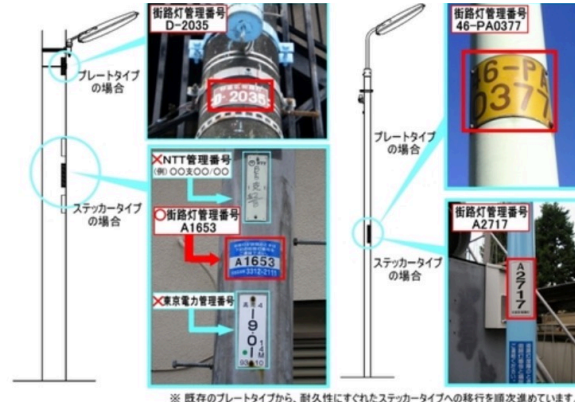
自分の居場所の通報に使える番号



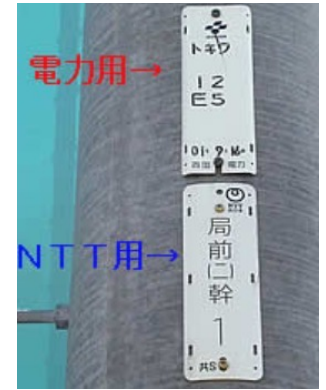
街区表示板



自動販売機の住所表示ステッカー



公共施設街灯



電柱番号



カーブミラー管理番号



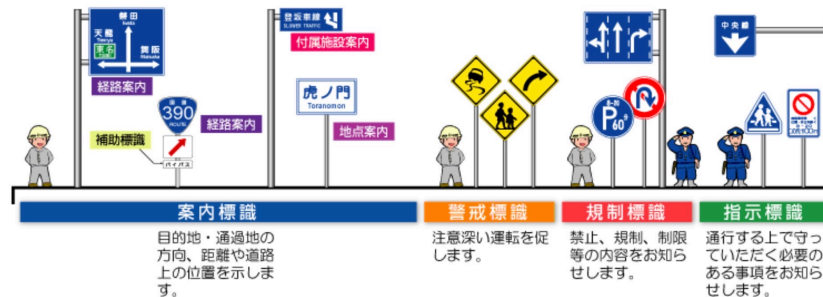
道路標識管理番号



防犯灯管理番号



防犯カメラ管理番号



案内標識管理番号・警戒標識（規制標識、指示標識）管理番号

爆破予告対応

爆弾脅迫の電話対応手順

爆弾脅迫の多くは電話によるものです。爆弾脅迫は、危険性が無いと証明されるまでは深刻な事件です。すばやく行動しつつも平静を保ち、このカードの裏面にあるチェックリストを使って情報入手してください。

電話による爆弾脅迫があった場合:

1. 平静を保ちます。電話をかけてきた人物とできるだけ長く通話してください。相手が電話を切ったとしても、電話を切らないでください。
2. 注意深く耳を傾けます。礼儀正しくし、会話の内容に関心がある様子で話します。
3. 電話をかけてきた人物に色々と話をさせ、更に情報を聞き出します。
4. 可能であれば、同僚にメモを渡し、当局に連絡するよう頼みます。または、電話が切られたらすぐに、自分で当局に連絡します。
5. ナンバーディスプレイ機能がある場合は、表示された番号および/または文字を書きとめます。
6. すぐに爆弾脅迫チェックリスト(裏面)に記入します。覚えておくことをできるだけ多く書きとめておきます。話した言葉をできるだけ正確に書き留めてください。
7. 会話が終わった後、すぐに電話を切らないでください。別の電話でFPSに連絡して情報を伝え、指示を待ってください。

手書きのメモで爆弾脅迫があった場合:

- 誰かに電話します。
- できるだけメモにさわらないでください。

Eメールで爆弾脅迫があった場合:

- 誰かに電話します。
- メッセージを削除しないでください。

怪しい小包の特徴

- 返送用住所が無い
- 切手がたくさん貼ってある
- しみがついている
- 異臭がする
- 異音がする
- 取扱注意事項のメモがついている
- 下手な手書き
- 誤字がある
- 役職名に間違いがある
- 海外の切手が貼ってある
- 予期せず届けられた

禁止事項

- 送受信用無線または携帯電話を使用しないでください。無線信号が、爆弾を爆発させるおそれがあります。
- 警察が到着して、脅威を評価し終わるまで、建物から避難しないでください。
- 火災警報器は鳴らさないでください。
- あやしい小包にさわったり、動かしたりしないでください。

爆弾脅迫チェックリスト

日付 時間

電話をかけてきた人物が電話を切った時間 脅迫電話を受けた電話番号

電話をかけてきた人物への質問事項

- 爆弾はどこにありますか? (建物、階、部屋など)
- いつ爆発しますか?
- どのような形ですか?
- 爆弾の種類は?
- どうしたら爆弾が爆発しますか?
- 自分で爆弾をしかけましたか? はい/いいえ
- なぜ爆弾をしかけましたか?
- 名前は?

実際に使われた脅迫の言葉

電話をかけてきた人物に関する情報

- 電話をかけてきた人物がいる場所は?(背景の音、音の大きさ)

- 推定年齢
- 声に聞き覚えがありますか?どんな声でしたか?
- その他の特徴

電話をかけた人物の声	背景で聞こえる音	脅迫に使われた言葉
☐ なまり	☐ 動物の声	☐ 支離滅裂
☐ 怒り	☐ 生活音	☐ メッセージの読み上げ
☐ 平静	☐ 台所の音	☐ 録音テープ
☐ 咳払い	☐ 道路の音	☐ 理性を失っている
☐ 咳	☐ ブース	☐ 口汚い
☐ かすれ声	☐ 拡声システム	☐ 上品
☐ 泣き声	☐ 会話	
☐ 低い声	☐ 音楽	
☐ 深呼吸	☐ モーター	
☐ 偽装した声	☐ 雑音なし	
☐ 独特な声	☐ 電波の雑音	
☐ 興奮	☐ オフィス機器	
☐ 女性	☐ 工場の機械	
☐ 笑い声	☐ 近距離/地元	
☐ 舌足らず	☐ 長距離	
☐ 大声	その他の情報	
☐ 男性		
☐ 鼻声		
☐ 普通		
☐ 疲弊		
☐ 早口		
☐ イライラ		
☐ ゆっくり		
☐ ろれつが回らない		
☐ 柔らか、優しい		
☐ どもる		



https://irescue.jp/PDF/Bomb-threat-call-report_JPN_FORM.pdf

普段から「もしも」のリスクを考えておく

- ・地球温暖化によるさまざまな自然災害はこれからも増え続ける。
- ・災害は考えたくはないが、考えて対応を準備しておく必要がある。
- ・地域の過去の災害における被災エリア、被害規模などを調べる。
- ・災害対応に強い職員を育てる。1日3分でも危機管理を考えさせる。
- ・家族にも施設側の危機管理体制を教え、発災時は協同してもらう。
- ・他の市町村で起こった災害や事件について話してみる。
- ・避難動線上のリスクを調べさせて、発表してもらう。
- ・職員同士も対応策などを話し合い、助け合う。
- ・自らの力で考えられる職員を増やし、対応できるように育てる。
- ・事態対応訓練は、月に一度、シナリオを変えて、行っておく。
- ・災害時、同僚を助ける方法等も考えておく。
- ・通所はできる限り、2人以上でさせる。
- ・不審者による無差別殺傷事件を考えて備える。



など、考えて、書き出して、動いてみること。

CVPPPを身につける

精神科医療では、「Comprehensive Violence Prevention and Protection Program: CVPPP、医療職のための包括的暴力防止プログラム」という医学書院から出ている本が、国内の精神科のスタッフや精神領域の施設のスタッフの間で、参考にされている。

- ①まず、相手の目付き雰囲気から、殺気や危険な雰囲気をかもしだしてるか観察。
- ②必ず出入口を確認して出口に近い方に位置し、襲われない距離にしか立たない、
- ③相手に正面を向けて立たず、45度の角度（半身）で立つ。
- ④急に動いたり、凝視、にらんでると思われたり、完全に目をそらすことはさける。
- ⑤直視しないが正面から見ず、他の感覚器で相手を見ること。
- ⑥一対一にならないこと。もし、なるようなら、逃げながら、助けを呼ぶ。
- ⑦もし、三人ほどで対応できるときは、交渉する者は一人で、残りは補佐に徹する。
- ⑧しゃべる内容は相手を批判、やったことを蒸し返すのは避ける。
- ⑨自分がパニック、フリーズしてしまうと適切に動けず、重傷を負うリスクあり。
- ⑩防御のbreakaway techniquesを身につけ、同僚や関係者に教えておく。

自衛術（デタント）とは

- ・プロファイリングを含め、危機や危険を未然に察知する。
- ・起こりうる危険事態を状況予測し、具体的な対応手段を準備する。
- ・必要最小限の自己防衛力を身につけ、有事の際に身を守る。
- ・有事の際、パニックにならず、落ち着いて事態対応する。
- ・日常的に危険予知する眼と感と力を育てる。
- ・場所や時間、経緯や相手に応じてベストな自衛を行う。
- ・拘束状態（手錠、ロープ、テープ、ジップ等）からの脱出手法。



検出
脅威を特定する

感情調整
身体を通して

道具箱
事態をコントロールする

平和的な解決
効率の高い言語
コミュニケーション

万一の場合
行動
AKBAN 実技を実践

デタントのテクニックを実行

コントロールする

通じ合う

行動する

①片手を掴まれたら、掴まれた方の足を踏み出して、掴まれた手を開き、内側にひねり、肘を合わせるようにして素早く体を捌く。



②相手の右手で自分の右手を掴まれそうになったら、まず、左手で相手の親指を開いて、素早く右に一歩逃げて、さらに2ステップで逃げ、構えて間合いを取る。



③両手で片手を掴まれたときは、自分の片手をもう片方の手で掴んで、相手の顎に肘打ちする感じで挙げて抜き、2ステップで下がる。



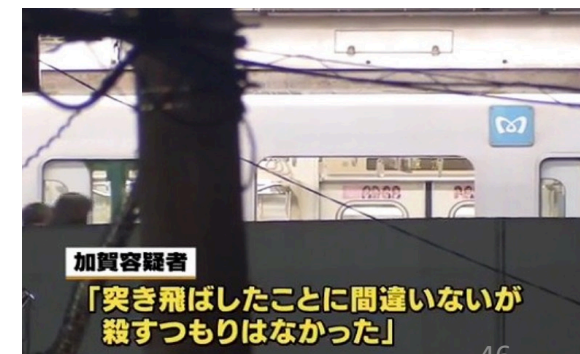
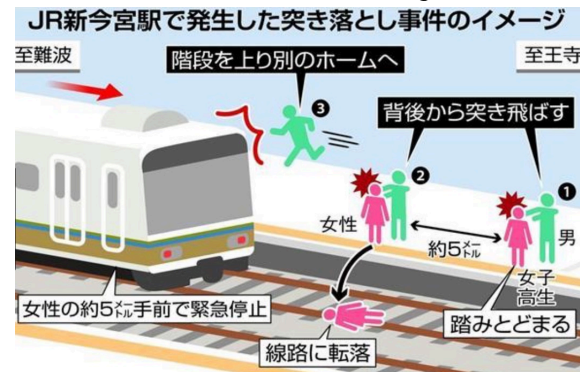
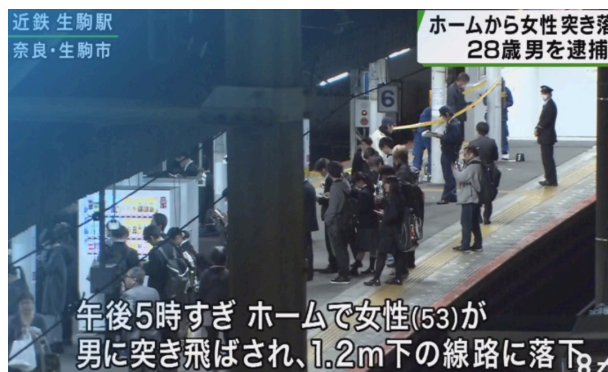
④両手で両手を掴まれたときは、一歩踏み出し、自分の両手を合わせて、相手の両肘と合わせる感じで挙げて抜き、2ステップで下がる。



ほぼ毎日のように満員の駅ホームの最前列で起こる線路への突き飛ばし魔事件

- ・ ストレス解消犯：肩で思い切りぶつかる等で線路への突き飛ばし
- ・ ささいな喧嘩からの小競り合いによる突き飛ばし
- ・ 酔っ払いから絡まれての線路内への墜落
- ・ 愉快犯によるスマホ撮影：ドミノ倒しを狙っての突き飛ばし
- ・ 逃げる女性を捕まえようとして突き飛ばし

※ホームドア有り無しにかかわらず注意すること。



ホームドアの無い駅のホームで電車を待つときには半身立ちで注意する



線路に平行に立たない

左利きの人の半身立ち

右利きの人の半身立ち

自然本体は突き飛ばされやすいが、突き飛ばされたら
しゃがむことで、線路内への落下を予防できる。。
一番前に立たない方がいいのかも。。

写真出典：古賀稔彦HP

こどもを犯罪から守る方法

- ・被害は考えたくはないが、予防と対策を準備しておく必要がある。
- ・地域における過去の犯罪、犯行エリア、被害内容などを調べる。
- ・災害対応に強い子供を育てる。1日3分でも危機管理を考えさせる。
- ・他の市町村で起こった災害や犯罪、事件について話し合ってみる。
- ・災害＆犯罪発生時、通報要領や家族や友達を助ける方法等も教える。
- ・顔見知り、知り合い、先生による犯罪も増えている。
- ・被害者にならないために日々、【守る】ことを意識化する。
- ・地域の行政区の防災＆防犯配信メールを登録しておく。
- ・怪しい車や不審者がいたら写メを取っておく。
- ・通学ルート、交通手段、時間帯を変える。同じパターンを作らない。
- ・通学動線上で逃げ込める場所を調べておく。
- ・親子で一緒に子供の動線上を歩いて安全調査を行うこと。
- ・通学動線上の防犯カメラを確認しておく。
- ・親子携帯電話を持たせて、緊急通報の方法を教えておく。
- ・

被災後の生活継続計画（LCP）

LCP (Life Continue Plan)は出来ているか？

- 1、被害想定（家族、仕事、住居、財産）
- 2、基本方針（命、地域、支援、復旧）
- 3、予防対策（現期、短期、中期、長期）
- 4、対応計画（初動、行動判断、優先対応）
- 5、防災装備（災害種別毎の準備・対策・訓練）
- 6、LCPの見直し、改善、実行、継続
- 7、LCPの向上、研究、促進、実現

簡単にできるところから少しずつ。

やりかけてもやりかけた分だけ成長する。

「早送りと巻き戻し」で状況予測を行う。

想定内を増やすことで想定外が減る。

日々、もしも、ここで何があったら、誰がどうするという具体的なイメージによる状況予測を行い、教員間で、発災後、危機回避するための選択肢を増やしておく。

また、2次災害等の「早送りと巻き戻し」を状況に応じて、繰り返し行っておくと、いざという時の行動判断の選択肢に繋がる。

借りて・生かして・還す。

過去の様々な自然災害で被災した方々の経験をお借りして、自分たちの生活や仕事にできる限り生かして、これからの災害予防や防災&防犯対策にして還すこと。

被災体験が詳細であればあるほど、その経験から学ぶことは非常に多く、また、具体的に生かされることが多い。

さまざまな被災体験を知って研究するには日々の各地の災害ニュースやYoutubeなどで、過去に起こった実際の災害映像を見ることができる。

自ら進んで「借りて・生かして・還す」を実践しよう！

本日の研修の振り返りや現状の改善点、課題について等

ご清聴ありがとうございました。

この講演資料のダウンロードはこちら→<https://irescue.jp/PDF/shirakobato.pdf>

●防犯・危機管理

G4S 警備学校 セキュリティーコンサルタント
テイケイ警備保障 警備員指導講師
など



●防災・災害対応

(特非) ピースウィンズ レスキューチームアドバイザー
(特非) ジャパンハート国際緊急救援学校顧問
(一財) 消防科学防災センター指導員
(株) FCR 鉄道人的災害特別指導官
(株) レスキュープラス 上級災害特別指導官
など

一般社団法人 日本防災教育訓練センター
サニー カミヤ



<https://irescue.jp>
03-6432-1171
info@irescue.jp

